

## 頑張る、踏ん張る、粘るを支える力

校長 二瓶 亮

2023年がスタートしました。今年1年をどんな年にするか、目標を決めてすでに行動に移している人もいます。卯(うさぎ)年にちなんで、今まで積み上げてきたものをさらにジャンプアップさせたいと考えている人も多いことでしょう。

学校では1年のまとめの時期となる3学期が始まりました。今年度はコロナ禍の中で、どうしたら行事を実施することができるか、知恵を絞って考え、実施してきました。内容変更ややむなく中止となった行事もありましたが、保護者・地域の皆様の御理解、御協力をいただきながら、吹中生の成長の歩みを止めることがないよう願いながらここまでこられたことに感謝しています。この3学期がそれぞれの学年での総仕上げとなります。コロナ禍であってもできることは何かを問い続けながら、吹中生の生きる力を育む教育活動を教職員一同、一丸となって行っていきます。引き続き保護者・地域の皆様にはいろいろとお世話になりますが、御協力、御支援をよろしくお願いいたします。



さて、冒頭で触れましたが、新年を迎え、気持ちも新たにこの1年の目標を立てた人は多いことでしょう。人は目標を達成するために頑張ります。踏ん張ります。粘ります。この頑張る、踏ん張り、粘るを支える「やる気」には3つの段階があるそうで、「ケーキの切れない非行少年たち2」(新潮新書)の著者 宮口幸治 氏(児童精神科医)によれば、①見通し②目的③使命感がそれにあたるとのことです。

①「**見通し**」 何を、いつまでに、どのくらいやるのか。この計画が立てられないと人は「やる気」が継続できないことが多くある。立派な目標を立てても見通し力がないと達成は難しいということです。

②「**目的**」 見通しができても次に必要となるが目的。何のためにやるのかという目的が人の頑張るを支えます。また、目的(〇〇したいからやる 〇〇するためにやる)は目標(〇〇する 〇〇になる)よりもハードルが下がるため、「やる気」が継続しやすいということです。

③「**使命感**」 最後の段階に必要なのが使命感。目的だけでは短期的には頑張れても続かないもの。今自分が挑戦していることは自分の人生にとってどんな意味があるのか。自分は社会の中でどんな貢献ができる(使命がある)のかを見つけることが必要なのだそうです。

この3つの段階、実は普段の授業や学校生活で繰り返し行われています。授業は生徒の皆さんに教科ごと〇〇という資質・能力を付けて欲しいという**目的**を持って行われています。1時間では身に付きませんから単元ごとに**見通し**を立てて進めていくことになります。この2つを意識して授業に臨むことで、課題に対して考えたり、議論したりすることから、思考力や判断力、表現力などが身に付きます。**使命感**は吹上中で果たしているそれぞれの役割といえます。学級の係活動、給食当番、清掃活動もそれに当たります。皆さんは日頃から知らず知らずのうちに自分の頑張るを支える力を養っているのです。この力を発揮させないのはもったいないこと。頑張る、踏ん張り、粘るを支える「やる気」を継続させるための3段階を意識して学校生活を送ってみてはどうでしょう。新年に立てた目標に向かって頑張ること、令和4年度のまとめをしっかりと行うことで自分を成長させてください。互いの頑張る、踏ん張り、粘りを認め合い、磨き合う、やる気に満ちた笑顔の多い素敵な3学期を創っていきましょう。